

# 西表島における観光利用の現況と課題

(現時点修正版)

## 目 次

1. 観光利用の現状把握.....	1
1-1 観光入込及び宿泊の状況 .....	1
1-2 アンケート調査からみた来訪者の意識等 .....	10
1-3 受入体制の現状.....	11
2. 沖縄観光の動向と世界遺産登録後の変化予測.....	15
2-1 観光入込客数の変化予測 .....	15
2-2 利用者ニーズ及び利用形態の変化予測 .....	15
3. 観光・エコツーリズム等の主な施設整備状況と計画.....	17
4. 世界遺産推薦地管理計画における観光・エコツーリズム .....	19
5. 拠点整備構想検討上の課題.....	24
5-1 利用の形態・特性からみた課題 .....	24
5-2 利用者ニーズからみた課題.....	26
5-3 世界自然遺産の保全・管理の観点からみた課題.....	26
参考：アンケート調査票.....	28

# 1. 観光利用の現状把握

## 1-1 観光入込及び宿泊の状況

既存データ及びアンケート調査結果からみた西表島の観光入込及び宿泊の状況は、以下のように整理される。

西表島全体の平成 27 年の観光入込客数は、年間約 39 万人であり、過去 10 年間の推移をみると、平成 19 年～20 年の約 40 万人をピークに平成 23 年にかけて一旦減少したが、その後増加に転じて、平成 27 年にはピーク時と同程度にまで回復している。また、西表島の入込客数の 89%は沖縄県外客が占めている。

西表島の入込客数を地区別にみると、東部地区を訪れる観光客は、西表島全体の 83%を占めており、西部地区の約 5 倍となっている。東部地区は 3 月と 11 月にピークがあり、夏季（6 月～9 月）の利用が少ないが、西部地区は夏季の利用が多い。

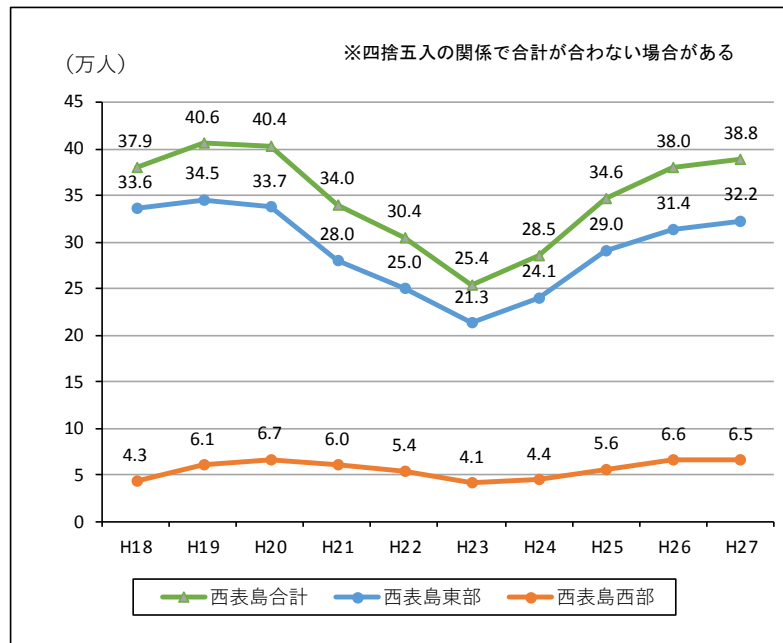


図 1 西表島の観光入込客数の経年変化

出典：竹富町 HP

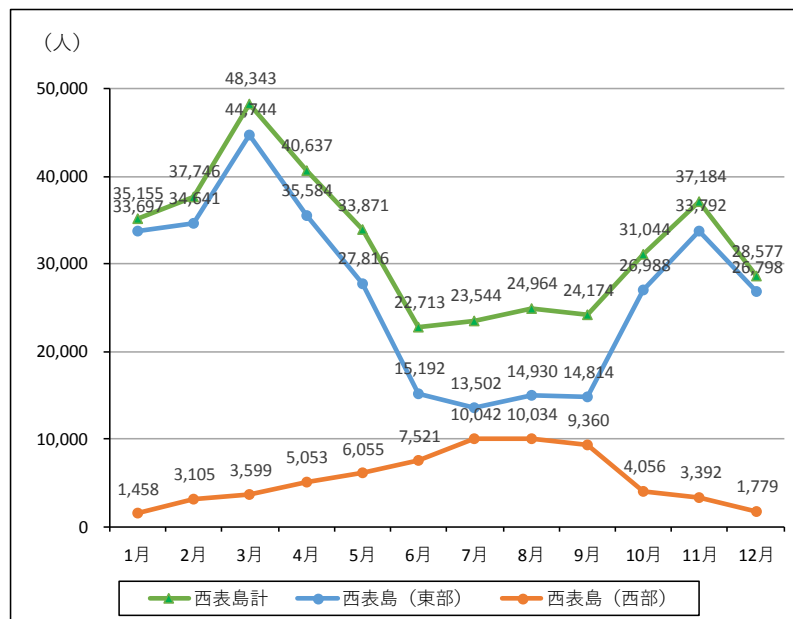


図 2 西表島の月別観光入込客数

出典：竹富町 HP

竹富町入域観光統計調査（H28.3）におけるアンケート調査結果により、竹富町を訪れた観光客のうち西表島を訪れた観光客は 450 人であり、そのうち西表島に宿泊したと回答した人は 142 人であった。このデータから西表島における宿泊率を推計すると 31.6%となり、平成 27 年の西表島の入込客数から宿泊客数を推計すると、西表島全体で概ね 12.2 万人が宿泊していると推定された。

竹富町入域観光統計調査（H18.3）のデータと比較すると、西表島を訪れた観光客 488 人に対する宿泊者は 165 人となっており、宿泊率は 33.8%であったことから、西表島の宿泊率は 10 年間で低下傾向にあることがうかがえる。

また、本業務において宿泊施設以外の地点で実施したアンケート調査結果では、西表島への宿泊率は 59.8%（110 人／184 人）となっており、アンケートに回答いただいた個人旅行者の場合には、西表島の宿泊率はさらに高くなるものと思われる。

表 1 西表島の観光入込及び宿泊の状況（推計）

地区	入込客数			
	県内	県外	海外	地区全体
東部	30,315 9.4%	285,411 88.5%	6,772 2.1%	322,498 83.1%
西部	6,153 9.4%	57,927 88.5%	1,375 2.1%	65,454 16.9%
西表島 全体	36,467 9.4%	343,338 88.5%	8147 2.1%	387,952 100%

※各地区の県内、県外、海外の割合は各地区全体に対する割合。  
地区全体の割合は、西表島全体に対する割合。県外には海外含む。

表 2 西表島の来訪者数と宿泊者数及び宿泊率

調査年	来訪者数	宿泊者数	宿泊率
H27 年	450 人	142 人	31.6%
H17 年	488 人	165 人	33.8%

出典：「竹富町入域観光統計調査」（H28.3 及び H18.3, 竹富町）より作成

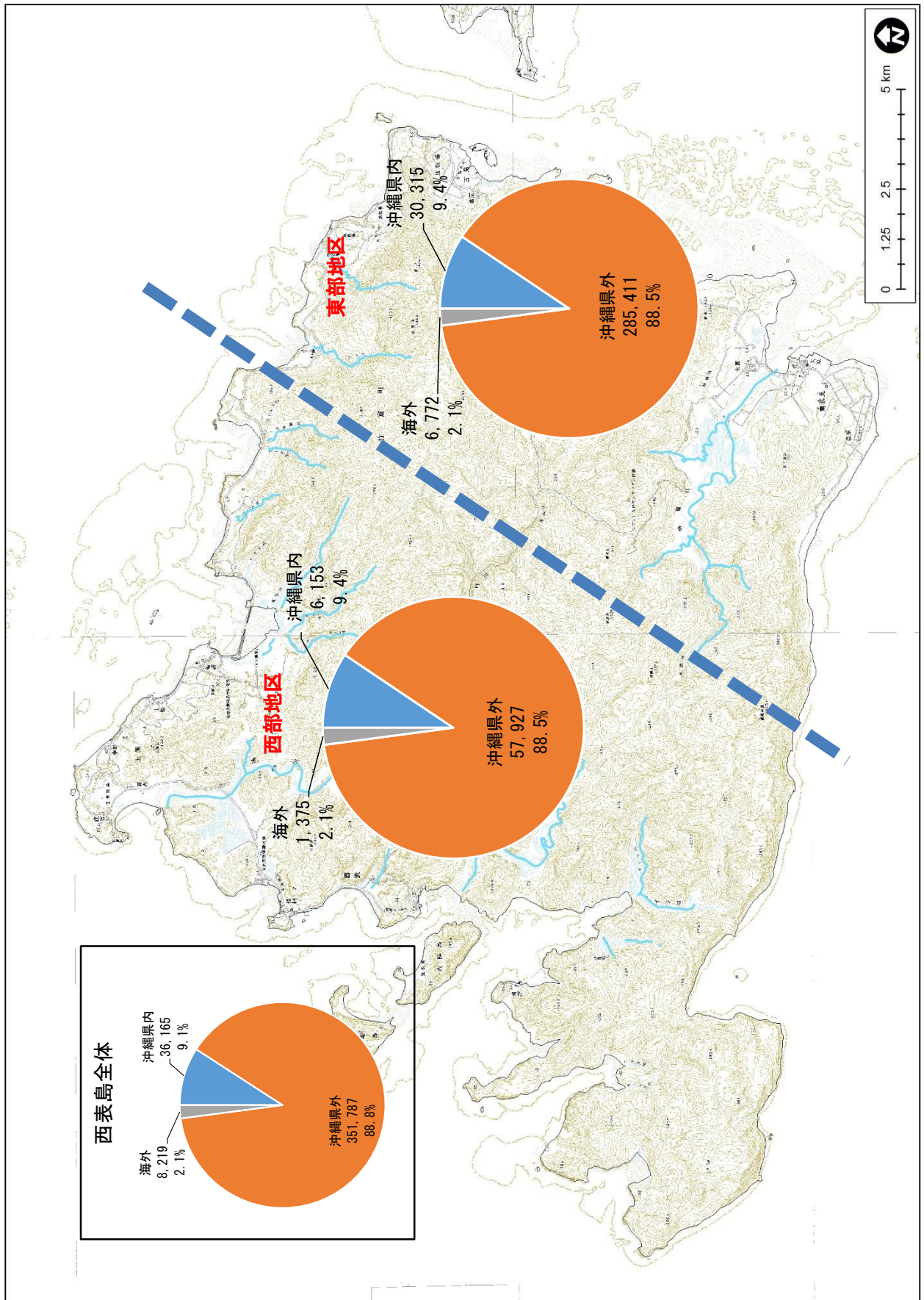


図3 観光入込の状況（推計）

西表島における主な観光拠点・フィールドの利用状況について、既存データ及びアンケート調査結果、現地カウント調査結果を用いて整理した結果は、表3,4及び図2に示したとおりである。

西表島で利用者数の多い地点としては、上位から仲間川（202,040人/年）、由布島（201,600人/年）、星砂の浜（50,500人/年）、浦内川・カンピレーの滝（30,400人/年）等であり、年間を通じたピーク日の入込客数については、それぞれ仲間川（1,122人/日）、由布島（1,117人/日）、星砂の浜（606人/日）、浦内川・カンピレーの滝（365人/日）程度等と推定される。

また、各地区（東部地区、西部地区）の年間入込客数に対する各拠点・フィールドの利用者数の割合をみると、それぞれ、星砂の浜（77.2%）、仲間川（62.7%）、由布島（62.5%）、浦内川・カンピレーの滝（46.4%）程度である。

一方、平成16年度に実施された「平成16年度自然再生事業（石西礁湖地区）にかかる社会学的調査」（以下、「平成16年度調査」という。）における自然体験ツアーによる利用者アンケート調査の結果（表3,4のD欄及び図4）と比較すると、過去概ね12年間にクーラ川は44倍、浦内川河口は約10倍、仲良川・ナーラの滝は約8倍、大見謝川は6倍、船浮集落・イダの浜は約2.5倍、マーレ川、ヒナイ川・ピナイサーラの滝等は約2.5倍等に増加しているのに対し、西田川・サンガラの滝、仲間川は概ね12年前と同程度の入込客数となっている。

表3 主な観光拠点・フィールド別利用状況（一般観光客数の推計）

地区	主な拠点・フィールド名	A:各拠点・フィールドの入込客数(概数)	B:ピーク日の入込客数推計(A*ピーク率)	C:地区別入込客数に対する割合(年推計)	D:平成16年度調査
西部	仲良川(動力船)・船浮(イダの浜)※1	14,200	170	21.7%	5,710
	星砂の浜(海水浴等)※2	50,500	606	77.2%	1,550
	浦内川(動力船)※3	26,000	312	39.7%	63,000 ※8
	大見謝ロードパーク※4	14,200	170	21.7%	—
東部	由布島※5	201,600	1,117	62.5%	—
	西表野生生物保護センター※6	15,700	87	4.9%	—
	仲間川(動力船)※7	198,800	1,102	61.6%	210,510 ※8

※1:A:白浜港でのカウントデータ68人。西部地区のH27.9月の日平均入込客数312人及び西部地区年間入込客数65,454人から割合を算出し年間入込客数を推計。

※2:A:現地カウント(海水浴・シュノーケリング利用)のデータ87人。西部地区のH27.9月の日平均入込客数312人及び西部地区年間入込客数65,454人から割合を算出し年間入込客数を推計。

※3:A:(資)浦内川観光提供データ。

※4:A:現地カウントデータの68人。西部地区のH27.9月の日平均入込客数312人及び西部地区年間入込客数65,454人から割合を算出し年間入込客数を推計。

※5:A:(株)由布島提供データ

※6:A:環境省西表野生生物保護センター提供データ。

※7:A:(株)東部交通、マリンレジャー金盛提供データ。

※8:平成16年度調査は遊覧船とカヤック等の利用の合計

B:西部は、石垣港・上原港航路(八重山観光フェリー提供データ)での入域者ピーク率1.20%から算出

東部は、石垣港・大原港航路(八重山観光フェリー提供データ)での入域者ピーク率0.55%から算出

C:西部地区年間入込客数推計65,454人、東部地区年間入込客数推計322,498人(表1参照)

D:「平成16年度自然再生事業(石西礁湖地区)にかかる社会学的調査」(H17.3財団法人自然環境研究センター)

表4 主な観光拠点・フィールド別利用状況（エコツアー利用客数の推計）

地区	主な拠点・フィールド名	A: 各拠点・フィールドの入込客数（概数）	B: ピーク日の入込客数推計（A*ピーク率）	C: 地区別入込客数に対する割合（年推計）	D: 平成16年度調査
西部	仲良川・ナーラの滝（カヤック等）※1	5,900	71	9.0%	1,010
	浦内川・カンピレーの滝（カヤック等）※2	4,400	53	6.7%	63,000 ※8
	浦内川河口（カヤック等）※3	10,400	125	15.9%	1,000
	ウタラ炭鉱跡※4	1,300	16	2.0%	1,880
	マーレ川、ヒナイ川・ピナイサーラの滝等※5	21,600	258	33.0%	8,570
	西田川・サンガラの滝※6	2,000	24	3.0%	1,990
	クーラ川※4	2,200	26	3.4%	50
	クーラの洞窟※4	660	8	1.0%	—
	大見謝川※4	1,800	22	2.8%	300
	ユツン川※4	1,200	14	4.0%	750
	ゲータ川※4	800	10	1.2%	—
	前良川※4	2,400	29	3.7%	1,030
	後良川※4	1,100	13	1.7%	940
	西表縦走線（横断道）※4	340	4	0.5%	180
東部	仲間川（カヤック）※7	3,600	20	1.1%	210,510 ※8
	北船付川※4	1,000	6	0.3%	20
	南風見田の浜※4	150	1	0.05%	80

※1:A: 白浜港でのカウントデータ 28 人。西部地区の H27.9 月の日平均入込客数 312 人及び西部地区年間入込客数 65,454 人から割合を算出し年間入込客数を推計。

※2:A: (資) 浦内川観光提供データ。

※3:A: 浦内川観光を利用しないカヤック等利用者（12 人）は、同日の浦内川観光のカヤック利用者（5 人）の 2.4 倍。これを浦内川観光の H27 カヤック利用者（4,351 人）に乗じて推計。

※4:A: 「平成 26 年度西表石垣国立公園西表地域における公園利用実態調査検討業務」（H27.3 環境省）。

※5:A: マーレ川カヤック乗場でのカウントデータ 103 人。西部地区の H27.9 月の日平均入込客数 312 人及び西部地区年間入込客数 65,454 人から割合を算出し年間入込客数を推計。

※6:A: (株) ダックツアー提供データ。

※7:A: 仲間川保全利用協定全 5 事業者中 3 事業者から回答のため、3 事業者の合計を 60%で割戻して算出。

※8: 平成 16 年度調査は遊覧船とカヤック等の利用の合計。

B: 西部は、石垣港・上原港航路（八重山観光フェリー提供データ）での入域者ピーク率 1.20%から算出。

東部は、石垣港・大原港航路（八重山観光フェリー提供データ）での入域者ピーク率 0.55%から算出。

C: 西部地区年間入込客数推計 65,454 人、東部地区年間入込客数推計 322,498 人（表 1 参照）。

D: 「平成 16 年度自然再生事業（石西礁湖地区）にかかる社会学的調査」（H17.3 財団法人自然環境研究センター）。



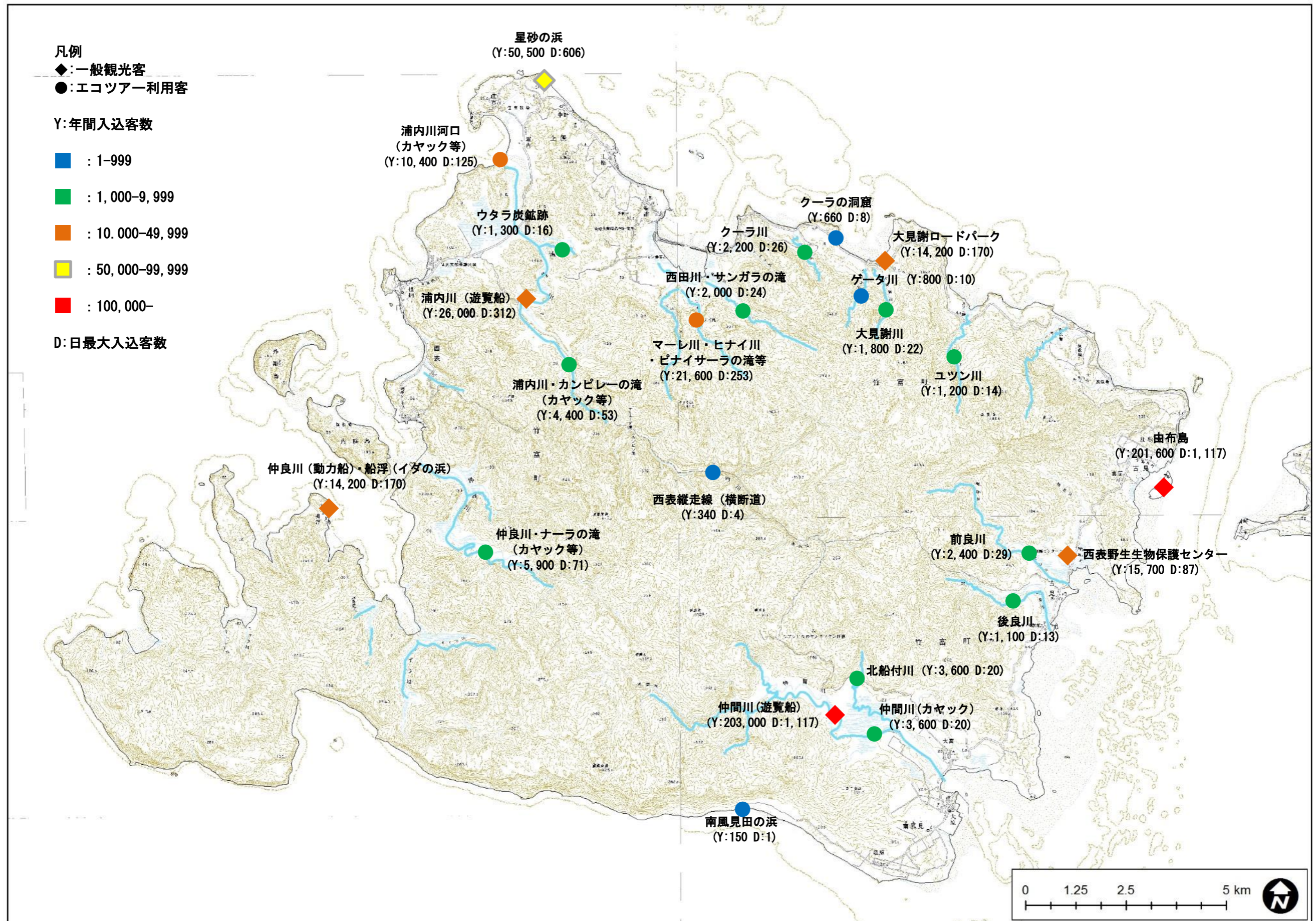


図4 主な観光拠点・フィールド別利用状況 (推計)







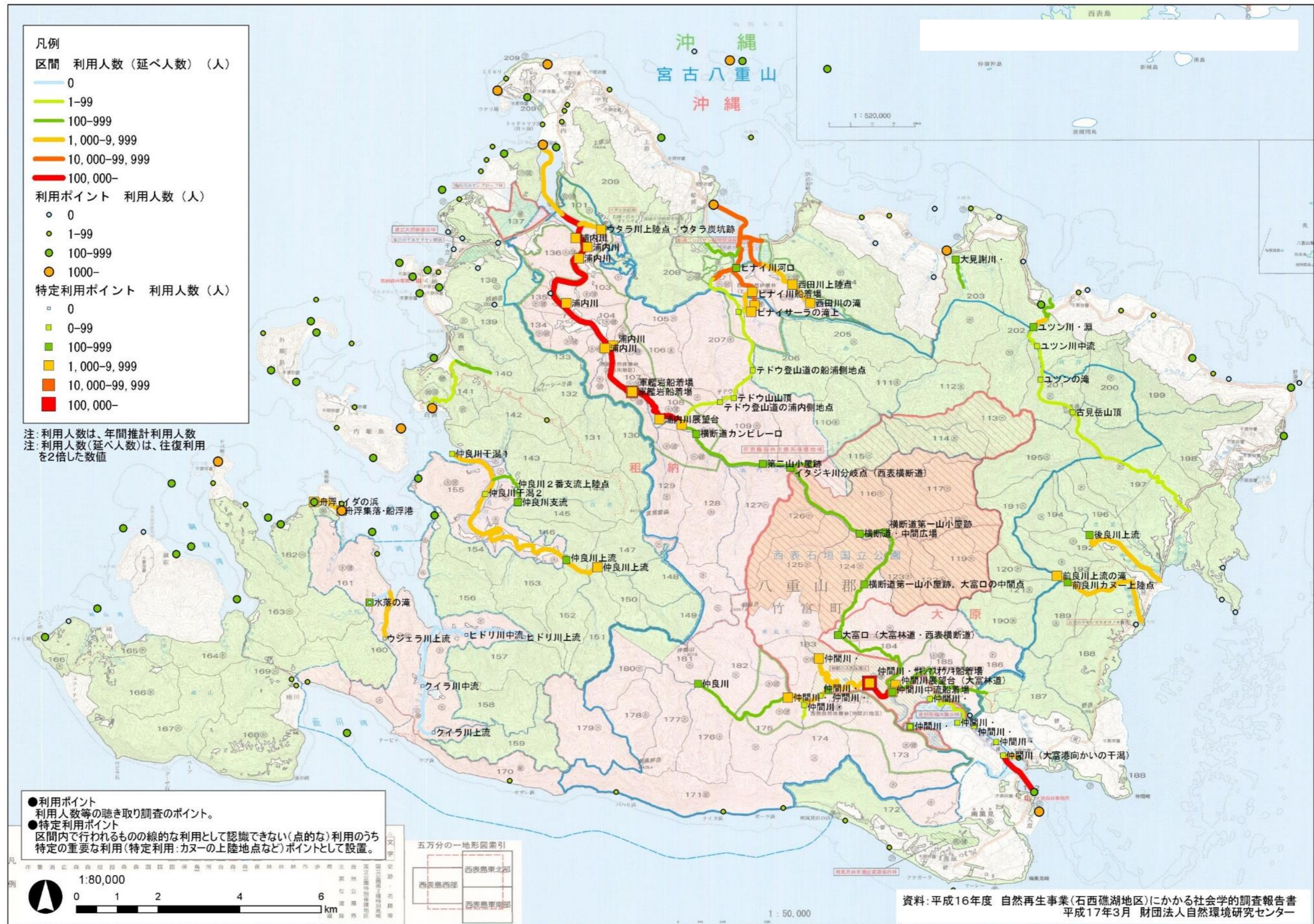


図5 自然体験ツアーによる主な観光拠点・フィールド別利用状況(平成16年度)

出典:「平成26年度西表石垣国立公園西表島地域における公園利用実態等把握調査検討業務 報告書」(H27.3 環境省那覇自然環境事務所)



## 1-2 アンケート調査からみた来訪者の意識等

### 1-2-1 アンケート調査の概要

#### (1) アンケート調査の目的

西表島の来訪者の利用実態や利用者の来訪者の意識・意向等を把握し、来訪者の視点からの利用上の課題等を抽出するため、アンケート調査を行った。

#### (2) アンケート調査の実施方法

アンケート調査は、主要観光施設等における現地対面式、宿泊施設留置で実施した。

なお、今回のアンケート調査は下記の方法で実施し、それぞれの場所で主に個人客を対象に意識・意向を把握したものである。(アンケート調査票は巻末に添付)

表5 アンケート調査の実施概要

実施方法	実施場所	実施日・実施期間	回収数
対面式	石垣港	平成28年9月23日	11
	大原港	平成28年9月23日・25日	153
	星砂の浜	平成28年9月24日	20
宿泊施設留置式	マリンロッジアトク、竹盛旅館 いるもて荘、ラ・ティーダ西表 池田屋、ペンション星の砂	平成28年9月17日～10月2日	69
			計 253

### 1-2-2 来訪者の意識等

西表島を訪れた来訪者の満足度、再訪率、再訪意向、ガイドの利用率は、以下のように整理される。

満足度をみると、「満足できなかった」との回答は極めて少ないものの、「とても満足した」は全体の60%であった。再訪率は全体で33%であり、現状におけるリピーター率は沖縄島北部と比べると低い。宿泊客アンケートでは43%とやや高くなっている。

また、全体の67%が「是非来たい」と回答しており、来訪意思は比較的高い傾向にある。

一方、ガイドの利用率は、スポット（星砂の浜、石垣港、大原港）でのアンケート調査は、51%と半数を超えるものの、宿泊客アンケートでは38%となった。西表島においては、アンケート調査対象である個人客のガイド利用率は、沖縄島北部や他の遺産推薦地と比べて高い傾向にあると言える。

表6 来訪者の意向

アンケート区分	満足度					再訪率	再訪意向			ガイド利用率
	とても満足した	満足した	どちらともいえない	あまり満足できなかった	満足できなかった		是非来たい	できれば来たい	来たくない	
宿泊客	63.6%	33.3%	1.5%	0.0%	1.5%	43.3%	66.2%	32.3%	1.5%	37.5%
スポット	59.8%	31.3%	3.9%	5.0%	0.0%	28.9%	66.9%	32.0%	1.1%	51.4%
全体	60.8%	31.8%	3.3%	3.7%	0.4%	32.8%	66.7%	32.1%	1.2%	47.7%



### 1-3 受入体制の現状

#### 1-3-1 宿泊施設

西表島には、ホテルやペンション、民宿、コテージ、キャンプ場など大小 77 軒の宿泊施設があり、全体で 1,711 人の宿泊容量がある。

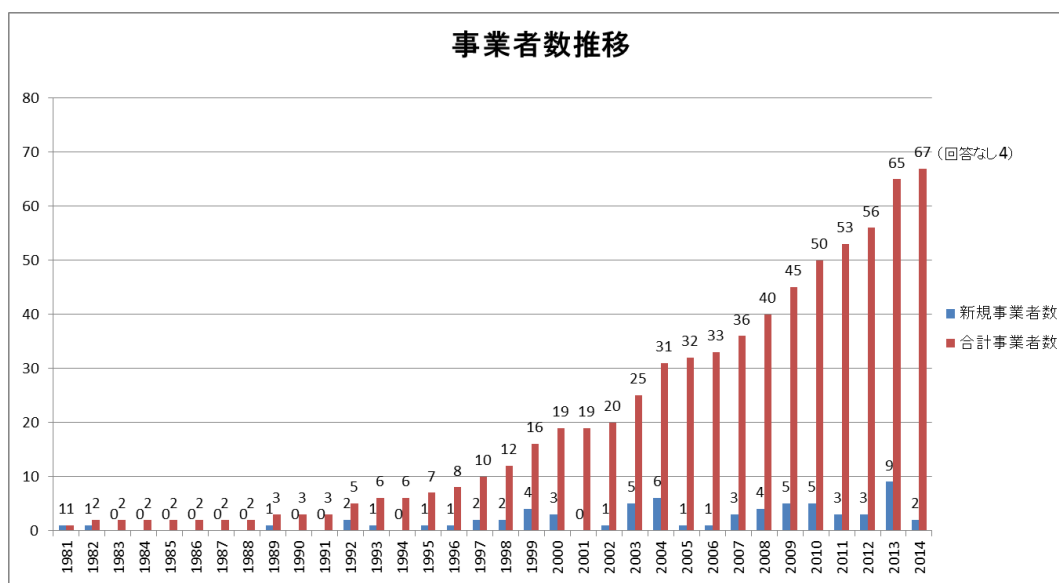
表 7 西表島の宿泊施設等

地区	地域名	宿泊施設区分・軒数	宿泊容量
西部	船浮	民宿 3 軒	32
	白浜	民宿 4 軒	75
	祖納	ホテル 1 軒、民宿 3 軒	82
	干立	ペンション 2 軒、コテージ 1 軒	100
	浦内	ホテル 1 軒、ペンション 3 軒	308
	住吉	民宿 7 軒、ペンション 9 軒	275
	中野	民宿 3 軒、ペンション 2 軒、コテージ 1 軒	77
	船浦	民宿 6 軒、キャンプ場 1 軒	124
	上原	民宿 10 軒、ペンション 1 軒	236
		西部計	58 軒
東部	高那	ホテル 1 軒、ペンション 1 軒、コテージ 1 軒	117
	古見	民宿 2 軒	8
	大原	民宿 7 軒	77
	大富	旅館・民宿 4 軒	44
	豊原	ホテル 1 軒、キャンプ場 1 軒、民宿 1 軒	156
		東部計	19 軒
計		77 軒	1,711

出典：「奄美・琉球世界自然遺産登録に向けた自然環境の利用と保全の現状及び将来の利用予測調査報告書」：H27.3：沖縄県

#### 1-3-2 エコツアー事業者

平成 25 年度の環境省の調査結果では、平成 25 年時点で西表島にはエコツアー事業者が 67 事業者、136 人のエコツアーガイドが確認されており、事業者数、ガイド数共に過去 10 年間で 2 倍に増加している。



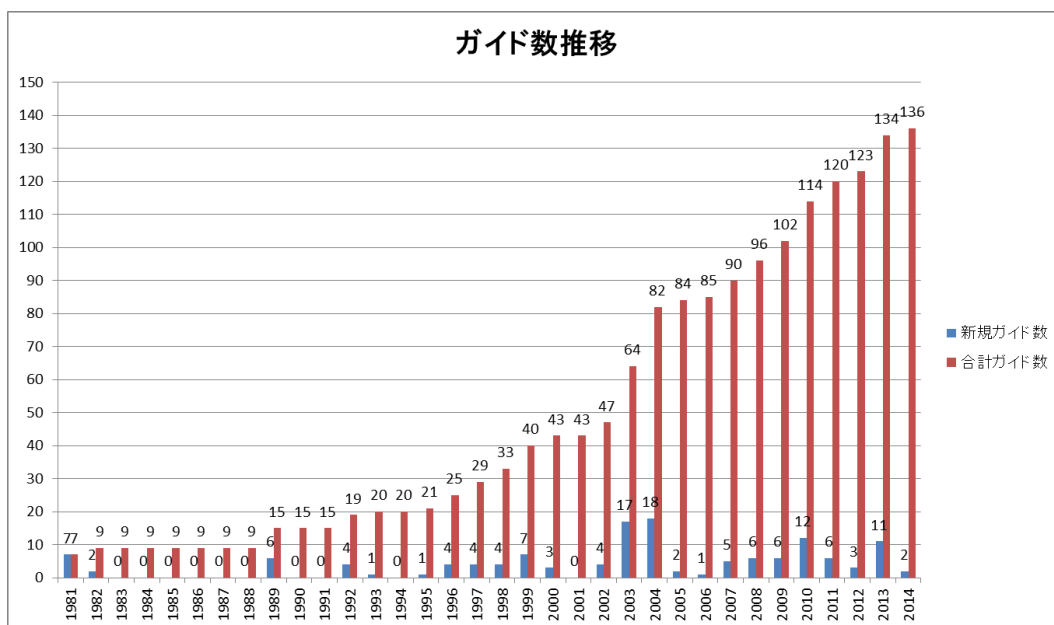


図 6 エコツアー事業者数・ガイド数推移

出典：「平成 25 年度西表石垣国立公園における登山道適正利用推進業務報告書」  
 平成 26 年 3 月：環境省那覇自然環境事務所

### 1-3-3 主な研究施設

西表島には、琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設と東海大学沖縄地域研究センターの 2 つの研究施設が設置されている。

これらの研究施設では、宿泊施設も完備されており、学内のみならず学外の教員、研究者、学生等に門戸を開いており、それぞれ年間で延べ 3,000 人を超える利用者がある。

琉球大学熱帯生物圏研究センター西表島研究施設では、学内の研究・教育とともに、他大学の学生を対象とした講義、国際協力事業団（JICA）研修員の受け入れ、県外の高校（SSH 指定校）や地元小中学生を対象とした体験学習など、様々なプログラムを実施している。

東海大学沖縄地域研究センターでは、学内の研究・教育とともに、地元に対する研究成果の還元の一環として、小規模講演会の実施や研究報告会（中間報告会を含む）への地元住民の招待、研究成果等をまとめた所報「西表島研究」の地元の関係機関や希望者に配布などを実施している。

表 8 西表島の主な研究施設の宿泊施設の概要

琉球大学熱帯生物圏研究センター 西表研究施設宿泊施設	東海大学沖縄地域研究センター 宿泊施設
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大定員（研究者 10 人、学生 40 人）</li> <li>・教官居室 2 部屋（ユニットバス付）</li> <li>・外国研究員居室 6 部屋（ユニットバス付）</li> <li>・学生居室 10 部屋</li> <li>・食堂、厨房、宿泊者用厨房、シャワー室、ランドリールーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浦内集落内に宿泊棟を借入（4 部屋、最大 18 名収容）</li> <li>・網取施設に 20 ベッド（主に網取湾周辺調査時に使用）</li> </ul>

※琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設 HP、東海大学沖縄地域研究センターホームページ及び各センターへの聞き取りから作成

なお、西表野生生物保護センターでは、主に研究者のサポートとして宿泊サービス（最大定員 8 人）を提供している。また、ホームページによるイリオモテヤマネコ等の情報発信の他、小学生以上を対象とした「干潟観察会（年 1 回）」、「イリオモテヤマネコ調査体験会（年 1 回）」、「ミニ講座（不定期開催）」等を実施している。

### 1-3-4 観光バス・レンタカー・タクシー

観光バスの台数の過去10年間の推移をみると、平成17年度には57台であったがその後やや減少し、平成27年度は45台となっている。また、レンタカーの台数は年による変動が比較的大きいが、過去10年間で概ね200台～300台の間を推移しており、平成27年度は197台であった。タクシーの台数は概ね9台程度で推移している。

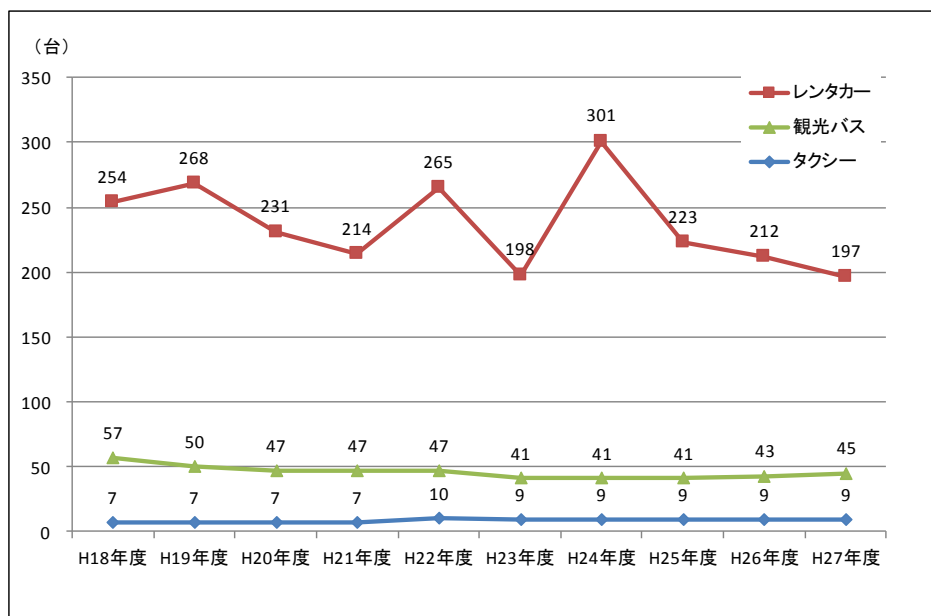


図7 観光バス・レンタカー・タクシー台数の推移

資料：「運輸要覧」、「事業要覧」：沖縄総合事務局 運輸部

### 1-3-5 水道供給量

西表島では5つの簡易水道が整備されており、いずれも表流水を水源とし、7つの浄水場で緩速濾過する方法で浄水したうえで、各事業区内に給水されている。

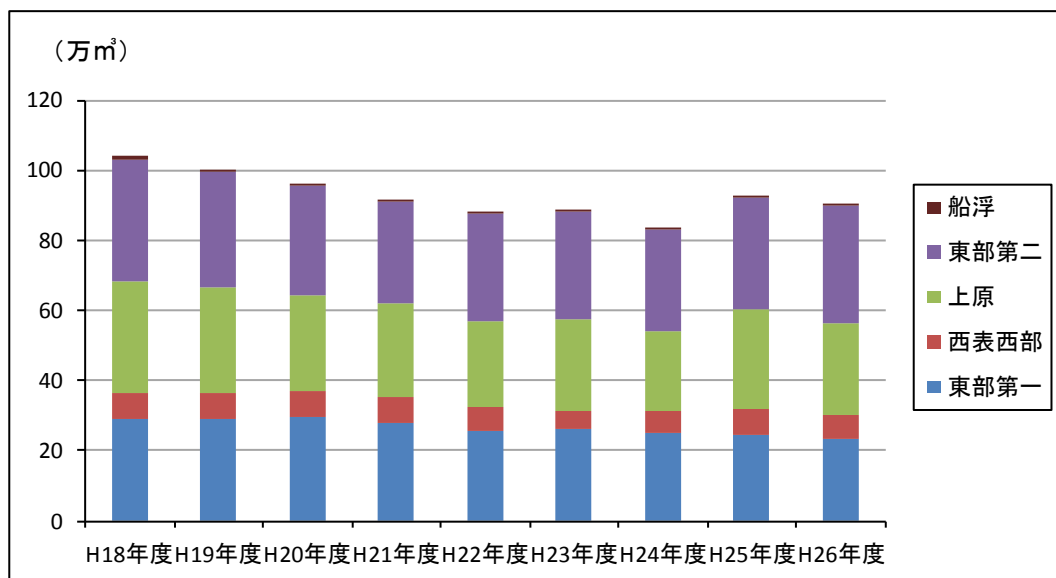


図8 実質年間給水量 (万m³) の推移

資料：「沖縄県の水道概要 (平成19年度版～平成27年度版)」：沖縄県環境生活部生活衛生課



### 1-3-6 ゴミ処理容量

西表島には、一般廃棄物最終処分場である竹富町リサイクルセンターが設置されており、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ及び焼却灰が、西表島内だけでなく竹富町内の他の島からも搬入されて施設内に埋立てられている。資源ごみに関しては、島外に搬出処分されている。平成27年7月31日時点の最終処分場の残余年数は67.54年である。

なお、竹富町では、規模の大きなリゾート事業者に対しては、自社責任で廃棄物の処分を行う協定を締結している。

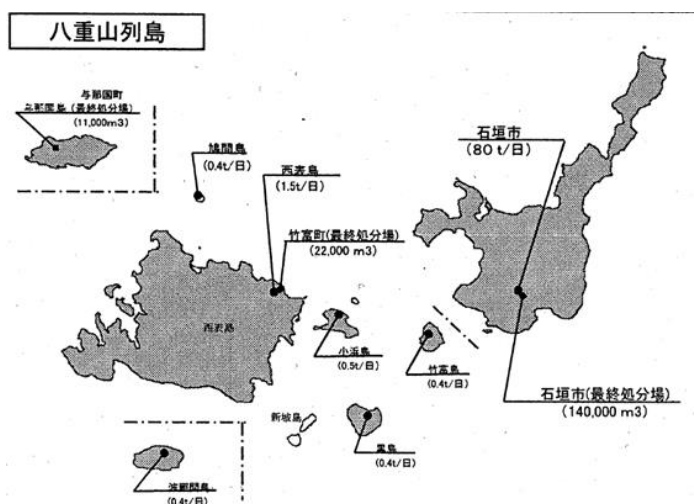


図 9 ごみ処理施設整備状況（位置図）

出典：八重山要覧

表 9 竹富町リサイクルセンター最終処分場の残容量

埋立開始 年月	終了予定 年月	埋立面積 (㎡)	埋立容量 (m³)	平成 27 年 7 月 31 日現在	
				残余容量 (m³)	残余年数(算定値)
H18.4	H33.3	4,300	22,000	19,701.8	67.54年

資料：「平成 27 年度竹富町リサイクルセンター最終処分場残容量算定委託業務調査報告書」  
：平成 27 年 8 月：竹富町

## 2. 沖縄観光の動向と世界遺産登録後の変化予測

### 2-1 観光入込客数の変化予測

「沖縄観光推進ロードマップ」（平成 27 年、沖縄県文化観光スポーツ部）によれば、第 5 次沖縄県観光振興計画の平成 33 年度の数値目標である沖縄県の入域観光客数 1000 万人を前提とした年度ごとの国内・海外別の誘客目標は下表に示すとおりであり、平成 33 年では、日本人の県外観光客数は 800 万人、海外観光客数は 200 万人（うち、西表島に来訪可能な海外観光客は空路客数の 175 万人）と設定されている。

表 10 市場別の誘客目標 (万人)

	H28	H29	H30	H31	H32	H33
<b>沖縄への観光客数合計</b>	<b>800</b>	<b>814</b>	<b>828</b>	<b>840</b>	<b>920</b>	<b>1000</b>
<b>国内市場（観光客数）</b>	<b>680</b>	<b>687</b>	<b>694</b>	<b>700</b>	<b>750</b>	<b>800</b>
うち空路客数	677	684	691	697	747	797
うち海路客数	3	3	3	3	3	4
<b>海外市場（観光客数）</b>	<b>120</b>	<b>127</b>	<b>134</b>	<b>140</b>	<b>170</b>	<b>200</b>
うち空路客数	97	103	110	116	145	<b>175</b>
うち海路客数	23	24	24	25	25	25

※千人以下を四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

こうした、沖縄県全体の観光需要の増大に加え、西表島については、国立公園指定及び世界自然遺産登録といった外部環境の変化により、現在の西表島への来訪率は現在よりも高まるものと推定される。本業務の調査結果から把握された西表島の平成 27 年度の観光入込客数は、39 万人/年（県内客：3.6 万人、県外客：34.3 万人、海外客：0.9 万人）であり、平成 27 年度の沖縄県全体の入域観光客数である 793.6 万人/年（県外客：626.6 万人、外国客：167.0 万人）から算出される**西表島の来訪率は、沖縄県全体の 4.4%（県外客：5.5%、海外客：0.5%）に相当**する。他の世界遺産地域の事例から、世界遺産効果による増加率を 1.5 倍程度（世界遺産登録後の利用変化予測の詳細については、「参考資料 2」参照）と設定すれば、**西表島の来訪率は県外客では 8.25%、海外客は 0.75%に増加**することとなる。

上記のような県外客及び海外客に対する沖縄県全体の観光客数の誘致目標と世界遺産効果による西表島への来訪率の増加を踏まえつつ、県内客数については現状のまま維持されると仮定した場合の西表島の観光入込客数は、世界遺産登録後の **H33 年度時点において、70.9 万人/年（県内客：3.6 万人、県外客：66.0 万人、海外客：1.3 万人）程度と推定**され、観光入込客数の増加率は 1.8 倍程度になるものと推定される。

### 2-2 利用者ニーズ及び利用形態の変化予測

世界自然遺産への登録を契機として、来訪者は世界遺産として評価された生態系や生物多様性への興味や関心が高まることから、風景鑑賞だけでなく自然探勝や生物観察利用、さらにはより深く自然の中に入り込むようなフィールド体験型の利用等に対するニーズが高まることが想定される。西表島の観光客の来訪目的をみても「海水浴・ダイビング・シュノーケリング」について「西表島の森の雰囲気を感じに」や「マングローブ遊覧船・カヤック」という利用目的が高い割合を占めている。

山や森や川などに直接入り込むフィールド体験利用に関しては、白神山地や知床のように自然環境が厳しく、ツキノワグマやヒグマとの遭遇といった危険もある地域では、専門のガイドによるサポート体制が構築されていても、一定以上の技量や体力が要求されることから利用者数はそれほど大幅に増加することはない。しかし、屋久島や小笠原諸島のように年間を通じて比較的温暖な気候であり、

事故や遭難以外では直接的な危険のない地域であれば、フィールド体験型の利用は大幅に増加している。

西表島では、ハブによる危険はあるものの、屋久島ほど急峻で標高の高い山岳地帯はなく、小笠原同様に亜熱帯気候であることから年間を通じて暖かく、車道から比較的容易に森や川の中に入ることができるため、事前にフィールド情報が入手できればガイドによるサポートの有無に関わらず、フィールド体験利用の需要は大幅に増大するものと想定される。

また、特に世界自然遺産登録に際しては、推薦地の遺産価値を示す象徴的な動植物の存在が強調されてマスコミ等で取り上げられる可能性が高いことから、象徴的な動植物を見たいという利用者の欲求が過度に高まる可能性もある。そのため、生態系や生物多様性に関する解説・展示がなされている野生生物保護センターや西表島の森の雰囲気を経験できるフィールド型の利用拠点に対する需要は相当程度高まることが想定される。

さらに、従来は利用されなかったフィールドや夜間や早朝などの時間帯の利用の増加などの変化が生じる可能性もあり、それに伴い宿泊利用のニーズも高まることが想定される。



### 3. 観光・エコツーリズム等の主な施設整備状況と計画

西表島における観光・エコツーリズム等に関わる主な施設整備状況及び今後の計画については、図10に示すとおりである。また、主な拠点施設の概要を以下に整理した。

名称	施設概要	現況写真
西表野生生物保護センター	イリオモテヤマネコに関する情報はじめとする、西表島の自然環境や文化等のガイダンス施設。	
由布島	島全体が植物園として整備されており西表島からは水牛車で渡る。全てのバスツアーで利用されている。	 (写真：由布島 HP より)
大見謝ロードパーク	大見謝川やゲータ川、クーラ洞窟への起点。展望台や木道が整備され、昼食や散策利用も多いが、トイレが未整備。	
マーレ川河口カヤック乗り場	マーレ川、ヒナイ川・ピナイサーラの滝の利用拠点。駐車場が整備されているが、トイレが未整備のため汚物の放置等が課題。	
浦内川遊覧船乗場	浦内川観光の拠点であり、遊覧船やカヤック乗場、トイレ、駐車場が整備されている。	
西表島エコツーリズムセンター	展示施設ではなく、自然や生活文化を通して、人と自然の共生を考えるために、エコツーリズムの普及・啓発・人材育成や地域活動を行うための情報発信拠点として開設された。	 (写真：西表島エコツーリズム協会 HP)





## 4. 世界遺産推薦地管理計画における観光・エコツーリズム

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然資産推薦地包括的管理計画では、観光・エコツーリズムに関しては、以下のような基本方針が示されている。施設整備に関して下線赤字に示したとおり、大多数が訪れるマスツーリズム型の周遊観光は主に緩衝地帯や周辺地域で受入れるとともに、推薦地の魅力を伝える利用拠点の整備を検討することとされている。また施設整備上の留意点として、利用による環境負荷を低減し、持続可能な利用に資するため必要最小限に留めるよう記載されている。

### 5) 適正利用とエコツーリズム

#### (1) エコツーリズム等の持続可能な観光の戦略的推進

観光は遺産価値への理解を深める機会となる一方、無秩序な観光事業の拡大や過剰利用の発生は、遺産価値を損ない、来訪者の期待や満足度の低下をもたらす要因となる。

地域関係者、事業者等は、遺産価値が地域の魅力であることを理解し、その保全に常に留意しつつ、遺産の価値や利用に関する効果的な情報発信や適正な利用に向けたルール等のもと、持続可能な観光を戦略的に推進する。大多数が訪れるマスツーリズム型の周遊観光については、主に緩衝地域や周辺地域において受入体制を整備し、推薦地の魅力を伝える利用拠点の整備をあわせて検討する。また、自然環境に加え、自然と人との共生の文化の普及啓発を行うことが、遺産の価値への深い理解、地域社会の持続的な発展に貢献することから、集落散策、歴史文化体験、地域産品などを組み込んだ観光を積極的に推進する。

推薦地においては、適正な利用に向けたルール等のもと、エコツーリズム等の豊かな自然や固有の文化を活かした自然体験型観光の推進を図る。

整備については、利用による環境負荷を低減し、持続可能な利用を行うため、必要最小限に留める。

#### (2) 適切な利用コントロールの実施

遺産価値の保全をしつつ持続可能な観光を実現するためには、保全すべき対象の特性と変化の状況、利用実態、キャリング・キャパシティーとの関係を十分把握したうえで、必要に応じて、適切な利用コントロールの実施を検討する。

利用コントロール手法の検討においては、管理機関、観光事業者、地域住民、NPO 等が参画して合意形成を図りつつ、協力・協働の体制を確立したうえで実施するとともに、来訪者の理解と協力を得るための普及啓発にも積極的に取り組む。また、実施後は、自然環境に加え、地域社会・経済への影響の把握を行い、定期的に評価を行っていく。

#### (3) エコツアーガイド等による普及啓発

観光事業者は、遺産価値に関するより多くの知識や情報、コミュニケーションや安全管理等の技術の向上を図るため、ガイドの人材育成や質の高いガイドの認定・登録制度の導入等を推進する。

また、エコツアーガイド等は、遺産価値に対する来訪者の理解を深めることが保全上重要であることを十分認識し、来訪者に構成資産の顕著な普遍的価値を効果的に解説し、実際に体感する機会を提供する。また、地域住民が長い年月をかけて、固有な動植物を含む自然資源を利用して生活を営んできた、自然と人との共生の歴史・文化についても正しく理解したうえで、地域固有の資源として来訪者にその魅力を積極的に伝えていく。

包括的管理計画において設定された西表島の推薦地、緩衝地帯、周辺地域の範囲は以下に示すとおりである。

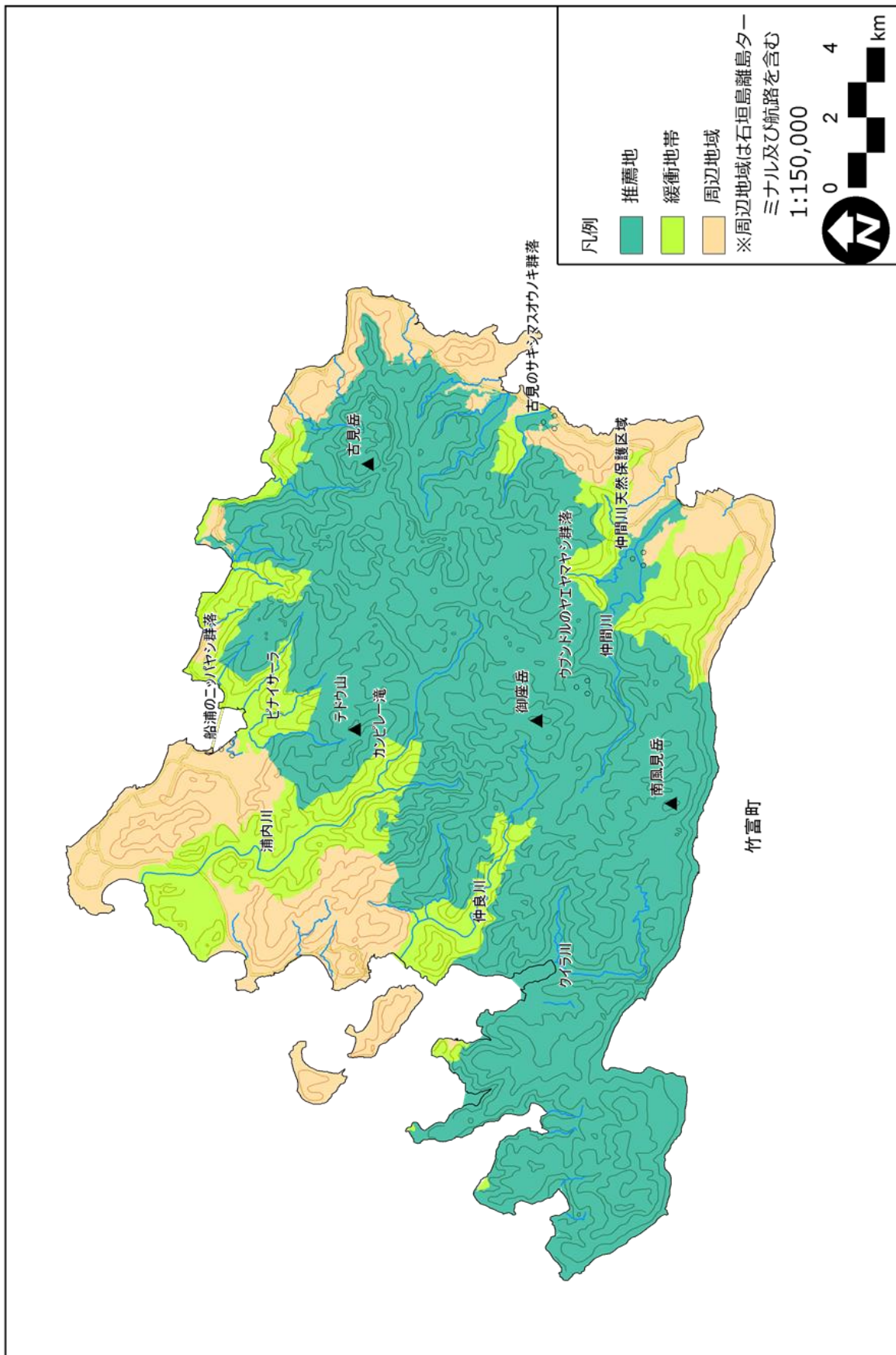
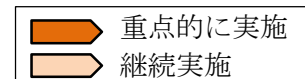


図 11 包括的管理計画において設定された推薦地、緩衝地帯、周辺地域の範囲

また、西表島においては、先に示した「適正利用とエコツーリズム」に関する基本方針に従って、以下に示すような行動計画が策定された。

◆西表島行動計画（抜粋）



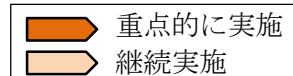
事業項目	実施主体	実施時期			対象範囲			事業の内容	目標と【評価指標】
		短期	中期	長期	推薦地	緩衝地帯	周辺地域		
<b>5) 適正利用とエコツーリズム</b>									
1 世界遺産に関する観光ビジョンの策定による持続可能な観光の推進	沖縄県 竹富町 地元関係団体				●	●	●	世界自然遺産に関わる各種行政機関、地域関係団体等が参加した協議会等の場を設置して、関係者の情報共有、意見交換による合意のもとで、世界遺産西表島における観光・エコツーリズム、保護保全の在り方の基本コンセプトを明確に示した観光ビジョンを策定して遺産価値の維持と観光振興を両立する。	世界遺産推薦地における観光ビジョンが策定され、遺産価値の維持と観光振興の両立が実現される。
2 施設整備による負荷の低減と適正利用の推進	環境省 林野庁 沖縄県 竹富町 地元関係団体				●	●	●	生態系や生物多様性などの遺産価値を利用者に実感させながら、利用に伴う負荷の低減と遺産地域における適正な利用を推進するために、既存施設の効果的な活用方法の検討及び以下のような施設の管理・整備を行う。 ○トレッキング等の利用による自然環境への影響を防止するための木道の整備 ○世界自然遺産への理解を深めるための拠点施設の検討 ○トイレ等のインフラ設備充実に向けた検討 ○沖縄県交付金事業による利用施設の整備 ○環境省直轄による国立公園事業の検討	遺産価値の保全と適正利用の両立、利用者の体験の質の確保。【西表島の入込客数】【拠点施設利用者数】【利用者満足度】



事業項目	実施主体	実施時期			対象範囲			事業の内容	目標と【評価指標】
		短期	中期	長期	推薦地	緩衝地帯	周辺地域		
3 適切な利用コントロールの実施及び利用ルールの設定・遵守	環境省 沖縄県 竹富町 地元関係団体				●	●	●	遺産価値（生物多様性と生態系）を保全するため、以下の取組等を実施することで自然利用に伴う負荷の低減を図る。 ○ヒナイ川および周辺国有林の自然体験型ツアーによるオーバーユース対策の強化 ○仲間川地区保全利用協定の適切な運用 ○エコツーリズムガイドラインの作成 ○資源特性と利用の現状に応じたゾーニングと利用ルール等の検討	自然利用に伴う負荷が低減され、遺産価値（生物多様性と生態系）の保全がなされる。
4 利用に伴う自然環境や地域社会・経済への影響・効果のモニタリング	環境省 沖縄県 竹富町 地元関係団体				●	●	●	観光・エコツアー等の利用状況を把握するとともに、利用に伴う自然環境への影響や地域社会・経済への影響・効果の評価のための有効なモニタリング手法を検討し、継続的なモニタリング・評価を実施できる体制を確保する。	利用に伴う自然環境や地域社会・経済への影響・効果のモニタリング・評価結果が各種計画・事業に適切に反映される。
5 利用の質の向上に向けた取り組みの強化	環境省 林野庁 沖縄県 竹富町 地元関係団体				●	●	●	世界遺産における適正かつ質の高い利用を実現するため、ガイド等の人材育成、プログラム開発等のソフト面での対応を強化する。また、ガイド事業者の実態把握、届出等の制度導入に向けた検討を行う。	世界遺産地域にふさわしい適正かつ質の高い利用の提供。
6 基金等を活用した保全管理費用の持続的確保	竹富町						●	遺産登録による利用者の増加による保全管理費用の増大に対応するため、受益者である観光事業者や利用者、及び遺産価値の保全に理解のある人々等から広く資金を調達できる仕組みの確保に向けた検討を行う。	西表島の自然環境の保全と持続可能な利用に必要な予算の確保。

先に示した行動計画の施設整備に関する項目において、今後の検討課題を整理した『課題リスト』では、以下のような課題があげられている。

◆西表島課題リスト（抜粋）



事業項目	実施主体	実施時期			対象範囲			事業の内容	目標と【評価指標】	今後の検討課題等（意見集約の結果を含む）
		短期	中期	長期	推薦地	緩衝地帯	周辺地域			
① サキシマスオウノキ周辺環境整備	林野庁		重点的に実施					利用による周辺自然環境の劣化軽減を目的として木道等の整備を行う。	遺産価値の保全と利用者の体験の質の確保。	
② 北船付川木道の整備	林野庁		重点的に実施					北船付川において木道を整備することにより、トレッキング等の利用による自然環境への影響を防止する。	遺産価値の保全と利用者の体験の質の確保。	
③ ウタラ炭鉱跡地への歩道及び木道の整備	林野庁	重点的に実施	継続実施					ウタラ炭鉱において歩道及び木道を整備することにより、トレッキング等の利用による自然環境への影響を軽減する。	遺産価値の保全と利用者の体験の質の確保。	新たな木道の整備
④ 世界自然遺産への理解を深めるための拠点施設の整備に向けた検討	環境省 沖縄県 竹富町	重点的に実施	継続実施					西表島の世界遺産の価値や世界遺産条約の意図、遺産価値や構成要素である希少野生動植物についての解説・展示、遺産地域の適正な利用方法や利用ルール等を適切に伝えるための施設の機能強化・新規拠点施設の検討を行う。観光客や地域住民に遺産価値を理解してもらうため、イリオモテヤマネコ等の希少動植物の観察機能を有する施設の導入可能性についても検討する。	利用者が世界遺産の価値や遺産地域の適正な利用方法を認識・理解できる利用環境の実現。	ヤマネコ等観察施設の導入可能性についての検討
⑤ トイレ等のインフラ整備の充実に向けた検討	沖縄県 竹富町 民間事業者	重点的に実施	継続実施					環境への負荷の低減と利用環境の向上を両立させるため、トイレ、下水道、ゴミ処理施設等のインフラ整備の充実に向けた検討を進める。	インフラ設備の充実による環境負荷の低減と利用環境の向上	温水シャワー設備の整備
⑥ 沖縄県交付金事業（利用施設の整備）	沖縄県 竹富町	重点的に実施	継続実施					西表島の利用予測に基づき、利用環境の改善につながる登山道、トイレ等必要な施設を整備する。	西表島の自然環境の適切な管理・利用に資する施設整備の実現。	施設の整備に加えて利活用の体制づくりが重要だが、公平性の担保に留意すべき。
⑦ 環境省直轄による国立公園事業の検討	環境省	重点的に実施	継続実施					国立公園の利用予測に基づき、登山道・トイレ等の施設整備による利用環境の改善・強化や、過剰利用を回避し、利用をコントロールするために必要な施設等の整備について、環境省直轄による国立公園事業を検討する。	西表島の自然環境の適切な保全・管理・利用を図る施設整備の実現。	不法滞在者がいることを踏まえた海岸部の整備

## 5. 拠点整備構想検討上の課題

### 5-1 利用の形態・特性からみた課題

#### 5-1-1 周遊型のマストツアー観光の現状と課題

西表島への入域状況からみると、83%の観光客が東部地区にある大原港を西表島観光の起終点としている。これは石垣島から大原港へのフェリーや高速船が上原港と較べて安定的に運行されていることや、仲間川や由布島などの誰もが安全に西表島の雰囲気を楽しむことができる利用拠点が東部地区にあるため、短時間で効率的な行程が組みやすいことから、旅行会社が主催する団体ツアーに代表されるマストツアー等では、大半が東部地区の大原港を利用するためと考えられる。そのため、東部地区は団体ツアーが増加する冬季～春季の利用が多く、夏季が少ない。また、繁忙期と閑散期の差が大きいという傾向がある。

東部地区の中でも利用が集中しているのは、仲間川と由布島の2か所であり、いずれも年間約20万人の入込客数があり、ピーク時には1日1,000人を超える観光客を受け入れているものと推定される。利用形態は仲間川では動力船による遊覧とサキシマスオウノキの大木鑑賞、由布島では水牛車での島渡りと島内園地散策である。

西表島での滞在時間に比較的ゆとりがある場合や宿泊を伴うツアーの場合には、西部地区にも行動範囲が広がる。西部地区におけるマストツアーの主な利用地点は星砂の浜と浦内川であり、年間入込客数は星砂の浜が5万人、浦内川が2.6万人程度で、ピーク時の利用者数は1日300～600人と推定される。星砂の浜では風景鑑賞・海水浴が行われており、浦内川では動力船遊覧と遊歩道散策、滝の鑑賞が行われている。

その他にも、大見謝ロードパーク（マングローブ散策）、仲良川・船浮（動力船遊覧・海水浴）なども個人客（小グループを含む）には利用されるようになっており、年間入込客数が1.5万人程度、ピーク時の利用者数は1日200人前後に達しているものと推定される。東部地区でも古見のサキシマスオウノキ大木（大木鑑賞）や南風見田の浜（海水浴）なども個人客の利用対象となっており、同程度の入込客数があるものと想定される。なお、大見謝ロードパークには大見謝川でのキャニオニングやシャワークライミング、仲良川ではサガリバナ観察、船着場上流部のトレッキングなどの自然体験型のエコツアー利用者も混在している。

世界自然遺産登録に伴って急激に増加するのは、大半がこうしたマストツアーの観光客であるが、現時点では観光客に対して世界自然遺産の価値とされている西表島の生物や生態系に対する効果的な情報発信や理解醸成を行うための機能は十分確保されていない。また、西表島での世界自然遺産の価値を象徴するイリオモテヤマネコに対しては、これまで以上に観光客の興味や関心が高まることが予想されるが、現状では西表野生生物保護センターでのほく製やパネル展示のみである。

マストツアーの最大の受皿となっている仲間川と由布島においては、現時点で既に過去最大規模の入込客数に達していることから、これ以上の利用集中を避け、年間を通じた利用の平準化を図るための対策を検討する必要がある。特に仲間川は世界自然遺産の推薦地内に位置していることから、観光利用に伴う遺産価値への影響の回避と確実なモニタリングと評価の体制が求められるものと思われる。そのため、保全利用協定の適切な運用、利用による負荷低減のための施設整備や想定される新たな脅威への対応方策等についても検討が必要である。

また、世界自然遺産登録後には、世界遺産の島である西表島を目的として来訪する観光客が増加することから、西表島での滞在時間や宿泊率の増加が見込まれるため、西部地区に訪れる観光客も増加する可能性が高い。特に浦内川や仲良川などに関しては、世界自然遺産としての西表島の森の雰囲気を味わいたいという需要が高まることから、動力船遊覧だけでなく森林域への入込客数の増加に対する対応方針とそれに伴う新たな機能確保に向けた重点的な検討が必要である。

さらに、西表島全体としては、大幅な入込客数の増加により、西表島内における宿泊容量の不足や水不足、ゴミ処理量の増加等の問題が生じるおそれもある。

### 5-1-2 自然体験型のエコツアー利用の現状と課題

西部地区の玄関口である上原港は、アクセスの脆弱性（石垣～上原航路の欠航）等から、入域観光客数が大原港の1/5程度と少なくなっているが、スキューバダイビングに関しては利用ポイントや事業者が西部地区に偏っているため、海域利用者は上原港を利用する機会が多い。また、カヤックやトレッキング等の自然体験型のエコツアーを目的とする利用者も同様の傾向があるものと思われる。

自然体験型のエコツアー利用者は、一部の修学旅行等を除き、個人客（小グループを含む）である場合が多く、西表島内での宿泊率やガイド利用率は比較的高い傾向にある。また、利用形態としてはカヌーやカヤック、トレッキングの他、近年ではキャニオニングやシャワークライミング、ケイビング、スタンドアップパドル、ナイトツアー、ホテル観察、サガリバナ観賞等、利用形態の多様化が進んでいる。

西表島でのエコツアーフィールドのうち、最も利用が多いのはヒナイ川・ピナイサーラの滝であり、年間入込客数は2万人を超えており、ピーク時の利用者数は1日250～300人程度になるものと推定される。次に利用が多いのは浦内川河口部で年間入込客数は1万人程度、浦内川及び仲良川に関しては5千人前後である。その他、仲間川、北船付川、後良川、前良川、ユツン川、大見謝川、クーラ川、西田川、白浜林道、仲良川周辺、内離島・外離島周辺等における年間入込客数は千～4千人未満、ゲータ川、クーラの洞窟、横断道等における入込客数は数百人程度と推定される。

平成26年度の環境省による調査では、西表島内のエコツアーガイドの事業者数は67事業者、ガイド数は136人が把握されており、過去10年間で約2倍に増加している。新たに参入したエコツアーガイドは、カヌー組合への参加と自主ルールの順守が必要なヒナイ川などの従来から利用されてきたフィールドを避け、他の人があまり利用していない小河川やより内陸部のフィールド、夜間や早朝等の時間帯などを利用する傾向がみられる。そのため、近年エコツアーフィールドが無秩序に拡散・増加しており、ヒナイ川、仲間川以外ではエコツアーに関する利用ルールが設定されていないため、無秩序な利用による自然環境への影響や事故の発生が懸念されるほか、エコツアーが狩猟区域に侵入することにより、事故が発生する可能性も懸念されている。

現在、利用されているエコツアーフィールドの大半は世界自然遺産の緩衝地帯及び周辺地域であるが、世界自然遺産への登録を契機として、自然体験型のエコツアー利用に対する需要が高まる可能性が高いことから、より原始的な自然を求めてエコツアーフィールドの拡散・増加がさらに加速することも懸念される。また、今後は夜行性のイリオモテヤマネコの観察を目的としたナイトツアー等に対するニーズが高まることも予想される。

したがって、エコツアーフィールドとしてのゾーニングやルールの設定、ガイドの登録や人材育成、利用に伴う影響のモニタリングや評価手法の検討等のソフト面での対応に加え、利用するフィールドでの影響・負荷低減のために最低限必要な施設整備、利用者への情報提供・普及啓発、緊急時の対応等の機能確保についての検討が必要である。

### 5-1-3 歴史文化体験型の観光の現状と課題

西表島において現在行われている歴史・文化資源を活用した観光としては、祖納や干立に代表される伝統的な集落での散策や祭り見物、ウタラ炭鉱跡を巡るトレッキングなどがあり、利用者数は年間数百～千人前後と推定されるが、祭り見学やイベント的に実施されている集落散策等の利用者数に関するデータは入手できていない。

西表島における固有の文化に関しては多くの研究がなされているが、多くの歴史文化資源を活用した観光は現時点ではそれほど盛んに行われている状況にはない。今後は、包括的管理計画で示されているような自然の人との共生の歴史文化を通じて、島の魅力を来訪者に伝えていくための施設や機能の確保、サービスの提供についても検討が必要である。

## 5-2 利用者ニーズからみた課題

来訪者のニーズとしては、西表島の魅力である豊かな自然を守ることは重要としながらも、西表島への唯一のアプローチである海上交通の充実や、西表島島内の移動手段、特にバス等の公共交通機関の充実、飲食施設、案内・情報提供施設、公衆トイレ等の便益施設等、快適に観光を楽しむための、基本的な施設の整備が望まれている。

海上交通の充実については、船の大型化、増船等で対応が可能ではあるが、その一方で、台風や海況に左右されるとともに、西表島内の受け入れ体制（港湾整備、主要観光施設等の運営、宿泊施設、飲食施設等）にも大きく影響する。特に、日帰り型のマストツアー観光客が多い東部地区については、仮に海上交通の充実により、より多くの観光客を運ぶことができて、例えば、主要な訪問先である仲間川の動力遊覧船の乗船人数や潮汐の状況、由布島の水牛車の乗車人数や運行サイクル等の制約があり、自然環境の適正利用の観点から、受け入れ体制のあり方についての検討が必要となる。また、島内交通機関（特に公共バス）の充実については、今後、増加が予想される個人客（小規模グループを含む）にとっては島内での移動手段の確保は必要条件であることから、レンタカー、レンタバイク、レンタサイクル等の利用と合わせた検討が必要である。なお、運輸要覧（沖縄総合事務局運輸部、H27.12）によれば H27 年 3 月現在の西表島でのレンタカーの事業者数は 14、台数は 197 台である。

一方、公衆トイレの整備は、大見謝ロードパークやマーレ川カヤック乗り場など、利用の多い拠点施設では喫緊の課題であるが、竹富町では、平成 29 年を目途にマーレ川カヤック乗り場にトイレの設置を予定している。

案内・情報提供施設については、現在、「西表野生生物保護センター」が東部地区に整備されているが、利用者数は年間 1.6 万人程度であり、西表島全体の入込客数の約 4%と必ずしも多くの観光客に利用されているとは言えない。

情報提供機能の強化にあたっては、案内板や道標のハード整備とともに、パンフレットやマップの作成等のソフト整備も求められている。

## 5-3 世界自然遺産の保全・管理の観点からみた課題

包括的管理計画においては、世界自然遺産としての管理体制を整えるうえで、『情報発信と普及啓発』の重要性に鑑み、以下のような方針が示されている。

計画対象区域を訪れる来訪者に対する情報提供と教育・解説プログラム提供のための手段としては、ガイドによる説明、既存の関連施設等の活用を積極的に進めるとともに、必要に応じて新たに世界遺産センターの整備を検討する。

また、西表島行動計画にも示されているとおり、竹富町では希少野生動植物の生息地等の保護、保護管理事業の実施、特別希少野生動植物の捕獲等の規制、指定外来種の放逐等の規制等の条項を含む新たな条例として、「竹富町自然環境保護条例」の抜本的改正が進められており、「種の保存法」や「外来生物法」等の関係法令と合わせた効果的運用を図ることとしており、そのため、以下のような取組みを実施することとしている。

地域住民や観光客に対して、法令等に基づく規制の内容や対象種に関する情報提供を行うとともに、民間事業者等の協力を得て、希少野生動植物の保護に対する普及啓発を行う。

なお、観光客に対するこうした情報提供や普及啓発については、入島時に行うことが効果的である。西表島は石垣港から大原港、上原港に入るというアクセスポイントが明確ではあるが、受け入れ側で全て行うのはキャパシティ的にも難しい（特に一般観光客や団体客の場合、できるだけ早く観光に行きたいのに、ガイドダンスを受けるために待たされると不満が増える等）ことから、受け入れ側の石垣港、上原港だけではなく、発地である石垣港や船内など、それぞれの場での情報提供や普及啓発



のあり方を考える必要があるとの有識者からの助言が得られている。

世界自然遺産としての保全・管理の観点からは、「世界自然遺産登録に伴う観光客の増加への対応（利用人数の制限の有無や環境税の導入、ガイドの人材育成や組織化、利用ルールの設定等）については、地元の関係者が自発的に検討することが重要であるとともに、竹富町として西表島の観光利用に関する条例を制定することも、一つの検討課題ではないか」との有識者からは指摘も受けている。

また、情報発信や普及啓発のための効果的な施設や機能の確保（西表島西部における展示・野外教育・ネイチャーガイド機能やミュージアムティーチャーの常駐するような総合的な拠点施設・フィールド等）に関する検討が必要とされている。

## 西表島を訪れた方へのアンケート

このアンケートは西表島の観光施設やフィールド等を利用された皆様のご感想・ご意見などを伺い、世界自然遺産登録に向けて、西表島の自然を守りながら持続的に活用していくための基礎資料とすることを目的としています。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。 沖縄県環境部自然保護課

### 問1 今回の旅行で西表島を訪れた理由として当てはまるものに○をつけて下さい。(複数回答可)

1. 珍しい動植物を見に
2. 西表島の森の雰囲気を感じに
3. 登山・トレッキング
4. 滝・川遊び
5. マングローブ遊覧船・カヤック
6. シーカヤック
7. 海水浴・ダイビング・シュノーケリング
8. ドライブ
9. 国立公園だから
10. 世界遺産推薦候補地だから
11. 特に興味はなかったが同行者に誘われたから来た
14. その他 ( )

### 問2 今回の旅行で立ち寄った場所、これから立ち寄る予定の場所はどこですか？

当てはまる場所に○をつけてください。(複数回答可) ※別紙の地図も参考にしてください。

1. 船浮集落
2. イダの浜
3. 内離島・外離島
4. 仲良川・ナーラの滝
5. 星砂の浜
6. 祖納集落
7. 浦内川・カンピレーの滝
8. マリユドゥの滝
9. ウタラ炭鉱跡
10. 比内川・ピナイサーラの滝
11. 西田川・サンガラの滝
12. クーラ川・クーラの洞窟
13. 大見謝川
14. ユツン川
15. ゲータ川
16. 由布島
17. 西表野生生物保護センター
18. サキシマスオウノキ巨木
19. 仲間川
20. 南風見田の浜
21. 西表縦走線・マヤグスクの滝
22. その他 ( )

### 問3-① 今回の西表島の旅行で立ち寄った場所で良かった場所がありますか？

1. ある
2. 特にない

### 問3-② 良かった場所とその理由を教えてください。(2箇所まで)

- 良かった場所1 ( )  
その理由 ( )
- 良かった場所2 ( )  
その理由 ( )

### 問4-① 今回の西表島の旅行で立ち寄った場所で良くなかった場所がありますか？

1. ある
2. 特にない

### 問4-② 良くなかった場所とその理由を教えてください。(2箇所まで)

- 良くなかった場所1 ( )  
その理由 ( )
- 良くなかった場所2 ( )  
その理由 ( )

### 問5-① 西表島での旅行は満足できましたか、当てはまるもの一つに○をつけてください。

1. とても満足した
2. 満足した
3. どちらともいえない
4. あまり満足できなかった
5. まったく満足できなかった

### 問5-② その理由を教えてください。

理由：

↓↓裏面につづきます↓↓

**問6 今回の旅行で不満などを感じたことについて、当てはまるものに○をつけてください。(複数回答可)**

1. 西表島の自然や文化の情報発信施設(ビジターセンター)が少ない 2. 西表島の珍しい動植物と触れ合える施設が少ない 3. 西表島の伝統文化の体験施設が少ない 4. 遊歩道・登山道が未整備・壊れていた  
5. 解説板・案内板が少ない 6. 公衆トイレが少ない・汚い 7. 駐車場が少ない 8. 展望施設が少ない  
9. 飲食施設が少ない 10. 宿泊施設が少ない 11. 特産品等の物販施設が少ない  
12. 特に施設に関する不満は無かった 13. 西表島には施設はできるだけないほうが良い  
14. その他( )

**問7 西表島にまた来たいと思いますか?**

1. ぜひ来たい 2. できれば来たい 3. 来たいと思わない 4. わからない

**問8 問7で「また来たい」と回答された方は、次回の訪問ではどこに行きたいですか? 当てはまる場所に○をつけてください。(複数回答可) ※別紙の地図も参考にしてください。**

1. 船浮集落 2. イダの浜 3. 内離島・外離島 4. 仲良川・ナーラの滝 5. 星砂の浜  
6. 祖納集落 7. 浦内川・カンピレーの滝 8. マリユドゥの滝 9. ウタラ炭鉱跡  
10. 比内川・ピナイサーラの滝 11. 西田川・サンガラの滝 12. クーラ川・クーラの洞窟  
13. 大見謝川 14. ユツン川 15. ゲータ川 16. 由布島 17. 西表野生生物保護センター  
18. サキシマスオウノキ巨木 19. 仲間川 20. 南風見田の浜 21. 西表縦走線・マヤグスクの滝  
22. その他( )

**問9 西表島が国立公園であることや世界自然遺産登録を目指していることをご存知ですか?**

1. 国立公園であることも世界自然遺産登録を目指していることも知っている  
2. 国立公園であることは知っている 3. 世界自然遺産登録を目指していることは知っている  
4. 国立公園であることも世界自然遺産登録を目指していることも知らなかった。

**問10 その他、西表島の自然等を活用した持続的な観光について、ご意見等自由にご記入ください。**

自由記述:

**◆最後にアンケートを記入された方について教えてください**

性別	1. 男性 2. 女性
年齢	1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳以上
居住地	1. 沖縄県内( )市町村) 2. 沖縄県外( )都道府県) 3. 海外( )国)
これまでに西表島を何度訪れましたか。当てはまるものに○をお付け下さい。 ※西表島在住の方は回答不要	
1. 初めて 2. 2回目 3. 3回以上	

**◆旅行形態について教えてください**

同伴者の有無及び関係	1. 一人旅 2. 夫婦 3. 家族・親戚 4. 友人(2人~3人) 5. 少人数グループ(4~6人) 6. 大人数グループ(7人以上)
西表島での滞在日数	宿泊( )泊)
滞在中にガイドやインストラクターを利用しますか	1. 利用する 2. 利用しない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。